

新しく町指定文化財になった

「あかがり地蔵」【その1】

長延下区に「あかがり地蔵」というお地蔵様が祀られています。平成29年7月20日付けで、このお地蔵様が町指定文化財（有形民俗文化財）となりました。

あかがり地蔵は以前、本紙昭和58年12月号で取り上げたことがあります。文化財指定を機に再度ご紹介します。

□引導

という経文と、

願主 太原村圓山□之助

という人名が確認できました。恐らく経文には、延命地蔵経の最初の一節である

毎日晨朝入諸定・入諸地獄令離苦

も刻まれていると推測できますが、確認できていません。

あかがり地蔵は右手に錫杖、左手に宝珠を持ちます。この姿は基本的に「延命地蔵」ですが、昭和58年当時「文字は刻まれてない」と言われていたこともあり、断言することはできませんでした。

しかし後年、拓本を採って確認してみたところ、延命地蔵経の一節である

無佛世界度衆生・今世□□

ていた通り、あかがり地蔵は延命地蔵そのものであることが分かりました。

そもそもこの「あかがり地蔵」ですが、なぜこのような名前なのでしょう。

昔はあかぎれやひびに悩む人が多くいました。いつしか「このお地蔵様に願うとあかぎれが治る」と信じられるようになり、「あかがり地蔵」と呼ばれるようになったのでしよう。余談ながら、町内には「タムシ地蔵」もあります。

このようにある信仰から名づけられた地蔵は「異名地蔵」と呼ばれ、全国になんと400以上存在します。

あかがり地蔵のお堂の前には、「赤銅地蔵」と刻まれた石標

が建てられています。すが、読み方にも多いう人はいないでしようか。

「筑後秘鑑」と

いう江戸時代の古書には、

あかがり地蔵、在長延村之西、石佛なり

昔は銅の地蔵なりしを、あかがりと誤れり

と記載されています。言い伝えでは「銅の地蔵は盗まれてしまったので、石の地蔵に代わった」とも言われています。

銅地蔵はあかがり地蔵の尊称を導き出すためのものであり、あかぎれやひびにご利益があるという、異名地蔵の一つと考えるのが順当ではないでしょうか。

(続く)

広川町郷土史研究会



あかがり地蔵 (長延下区)

広川町古墳資料館だより

12月の直弧文彫刻体験ワークショップでは、受講生の皆さんと日輪寺古墳、浦山古墳を見学しました。どちらも直弧文を有する装飾古墳です。

日輪寺の境内にある日輪寺古墳(5世紀末)は、被葬者を安置する石室に方形の囲み石があり、その壁面に鍵手文(直弧文の一種)や同心円文が線彫りされています。

成田山久留米分院の境内にある浦山古墳(5世紀後半)の石室には、棺蓋に環状縄掛突起のある横口式家形石棺が安置されています。石棺内面には、石人山古墳とは違い直弧文と同心円文が線彫りされています。

